

大源太砂防設備他利活用協議会

設立趣意書

新潟県南魚沼郡湯沢町土樽地区に位置する大源太キャニオンは、名峰大源太山の山麓や大源太湖等から構成される風光明媚な自然環境に囲まれた地域である。

昭和30年代に湯沢地域における夏季の観光整備が望まれるようになると当該地域の開発が脚光を浴び、昭和48年に大源太湖上流に「青少年旅行村」が整備され、キャンプ場として多くの観光客が訪れるようになった。

昭和52年には湯沢町の歩道整備の一環として大源太川第1号砂防堰堤直上流に「希望大橋」が架設され、大源太湖を周遊する遊歩道の整備が行われた。その後、現在の観光資源となる「ゴルフ場」や「陶芸工房」、「体験工房」等の施設が順次開設され、現在に至っている。

大源太湖を形作っている「大源太川第1号砂防堰堤」は昭和14年に竣工した我が国最初期のアーチ式砂防堰堤で、登録有形文化財にも登録された歴史的な砂防堰堤である。

大源太川第1号砂防堰堤では平成26年から補強工事に着手し、本体工事は令和2年12月に完成を迎えた。この補強工事の際に使用した仮排水トンネルは、新たな地域活性化資源として利活用を望む声も上がっている。

なお、湯沢町では令和3年4月から新たに「一般社団法人湯沢町観光まちづくり機構」を発足し、観光地としての街づくりをさらに進めていくための計画を進めている。

これらの動向を踏まえ、湯沢町の観光拠点の一つである大源太キャニオンに位置する「大源太川第1号砂防堰堤」及びその周辺部の今後の利活用促進に向けて、利活用に伴う安全管理及びその体制の構築を行うため、「大源太砂防設備他利活用協議会」を設立するものである。

令和4年3月3日